

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 2001年から継続的に取り組んでいる海外技術支援活動。インド、パキスタン、タイなどで技術支援および調査活動を展開している。現地での技術指導にあたり、豊富な知識と経験を惜しみなく伝授する伊藤さん。

2 伊藤さんが校長を務める「地域ものづくりシニアインストラクター養成スクール」は、ものづくり企業のベテラン社員やOBを対象にシニアインストラクターを育成している。その成果発表会・修了式の様子。

3 2002年、カナダでヘリスキーを楽しむ伊藤さん。趣味のスキーでもフロンティア精神を発揮し、だれも滑っていない新雪を求めてヘリスキーが定番に。クレバスに落ちるという危険な経験をしても恐怖心はない。

「世界のホンダ」の創業者を“おやじさん”と呼び、ものづくり精神を後進へ、海外へと伝える。

伊藤洋 東京大学 経済学部ものづくり経営研究センター 特任研究員

「やってみませんか!」本田宗一郎氏がよく口にしたというこの言葉は、上杉鷹山公の名言「為せば成る為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」に通じると語る伊藤洋さん。ホンダの創業者を“おやじさん”と呼び、2輪車からスタートしたホンダの4輪車参入を支えた技術者の一人だ。上杉社のすぐ近くで生まれ育った伊藤さんは、小さい頃からオートバイなどの機械に興味を持つメカ少年だった。幸いにも本学の工学部が目と鼻の先にあつたため、迷うことなく進学を決めたという。学生時代は、中古オートバイを自分で修理して乗り回したり、蔵王でスキーを楽しんだり、工場での実験のデータ取りやバスの車掌といったアルバイトに奔走したりして、バンカラな日々を過ごした。

精密工学科の第一期生として現在のデジタル産業やロボット、ITの草分け的カリキュラムを学んだ伊藤さんは、先生の的確な指導もあって本田技研工業の入社試験に見事合格。入社後はホンダー筋、実践知を重視する本田社長のもと、4輪部門では後発でありながら創造性と独自性で“ホンダならではの”車を世に送り出し続けた。金型設計や車体生産技術開発プロジェクトなど、さまざまな部署で活躍の後、1989年には同社から生産技術部門として独立したホンダエンジニアリングの取締役に。車体生産開発責任者、品質保証責任者を務め、ボディ戦略を構築。定年退職後は、インド、パキスタン、タイなどでの海外技術支援活動に継続的に取り組んでいる。また、東京大

学、東京理科大学、広島大学など各地の大学で講義を行うとともに、地元米沢市の産業アドバイザーとして市への提言活動を行い、地域ものづくりシニアインストラクター養成スクールでは校長を務めている。さらに、2004年からは東京大学経済学部ものづくり経営研究センター特任研究員として活躍している。

入社式での“おやじさん”の教えの一つ、「自分のために働け」を現在も実践。後進の育成に励みながらも、自身が楽しむことにも一生懸命。大好きなスキーの醍醐味を味わうために欧米のスキー場にまで足を伸ばす。このバイタリティーが日本のものづくり、クルマ産業を牽引してきたのだと納得させられる。先輩の公私に大いに学ぶとしよう。

実践の成果